日本医史学雑誌　第68巻第3号（2022）　230–235

『アルティチェラ Articella』

坂井　建雄

順天堂大学保健医療学部

ヨーロッパでは中世ルネサンス期から，大学の医学部で医学が教えられるようになった．フランスのモンペリエ大学とパリ大学，イタリアのボローニャ大学とパドヴァ大学が著名である．これらの大学で教えられていた医学は，今日の医学のように基礎医学と臨床医学を学ぶのではなく，古代ギリシャの医学文書を学ぶものであった．授業のやり方も，今日のように講義と実習を通して学ぶのではなく，古代由来の原典を講読し討論によって理解を深めるスコラ的授業が行われた．『アルティチェラ』は，このような中世ルネサンス期の大学医学部での授業で用いられた医学教材集である．

『アルティチェラ』の出版状況

『アルティチェラ Articella』はイタリア語で「小さな本」を意味し，ギリシャとアラビア由来の医学文書を集めた書物である．12世紀初頭にサレルノ医学校で編まれ，医学の基礎的な教材としてヨーロッパの大学医学部で広く用いられた．当初はヨハニティウスの『入門』，ヒポクラテスの『箴言』と『予後』，ビザンツの医師による『尿について』と『脈について』の5つの文書を含んでいたが，12世紀中葉にガレノスの『医術』が加わって『アルティチェラ』の中核となり，その後にさまざまな文書が加わるようになった[1)]．

『アルティチェラ』は中世に手稿本として広まり，そのうち現存するものが35冊知られている[2)]．

表1　『アルティチェラ』の出版状況

出版年	判型	出版地	印刷者
1476	folio	Padua	Nicolaus Petri of Haarlem
1483	folio	Venice	Hermann Liechtenstein of Cologne
1487	folio	Venice	B. de Tortis
1491	folio	Venice	Philippum de Pinzis
1493	folio	Venice	Bonetus Locatellus
1500	folio	Venice	Johannes et Gregorius de Gregoriis
1502	octavo	Venice	Johannes et Gregorius de Gregoriis
1505	octavo	Lyon	—
1506	octavo	Pavia	Jacob Burgofranco
1507	octavo	Venice	Petrum Bergomensem de Quarengiis
1510	octavo	Pavia	Jacob Burgofranco
1513	folio	Venice	—
1515	octavo	Lyon	Joannem de la Place
1519	octavo	Lyon	Jacobus Myt
1523	quarto	Venice	Octaviani Scoti
1525	octavo	Lyon	Antonium du Ry
1527	quarto	Lyon	Jacobus Myt
1534	octavo	Lyon	Joannem Moylin alias de Cambray

15世紀末からは印刷出版されるようになり，1476年から1534年までに18版が出版されている[3]．出版地で見るとパドヴァから1476年に，ヴェネツィアから9版が1483～1523年に，パヴィアから2版が1506・10年に，リヨンから6版が1505～1534年に出版されている．判型では最初に大型のフォリオ判で7版が1476～1513年に出版され，それに入れ替わるように携帯サイズの8折判の9版が1502～1534年に出版され，中間サイズの4折判が1523・27年に出版されている．

『アルティチェラ』1534年版，8折判

私の所蔵本は，リヨンから1534年に出版された8折判である[4]．扉頁は赤と黒のインクで表題が印刷され，周囲に木版画による美しい装飾が施されている．

表紙は薄板に革張りをしたもので，凝った模様が型押しされている．背表紙は19世紀に新たに作られ，「ARTICELLA MEDICA, 1534」のタイトルが刻まれている．表紙の端に小口を綴じるための2ヶ所の銅金具があるが破損している．日常的に携帯して，授業や診療などで参照するために作られたのだろう．しかし本の中身は驚くほどきれいである．冒頭と末尾の一部に，天地の端から水のシミのようなものが滲んでいるだけで，あまり使用した形跡がない．所有者はこの本を大切に保管して，頻繁に読み込むようなことがなかったと思われる．

本のかつての所有者についての手がかりもわずかにある．本の最後の頁に黒インクの書き込みがあり，“29. Maij 1606”の日付が読み取れる．その後にブダペスト医師協会が取得したのだろう，扉裏の目次の下の端に“Societat. Medicor Pesilien et Budens”の印が捺されている．

本文はゴシック体の活字を用いて2段で46行，上部に文書の表題と葉の番号が印刷されている．第367葉左面には瀉血人の図が載っている．本全体は370葉からなり，32の文書が含まれている．

これらの文書のうち，ヨハニティウスの『入門』，フィラルトゥスの『脈について』，テオフィロスの『尿について』，およびヒポクラテスの『箴言』と『予後』，ガレノスの『医術』の6文書は，

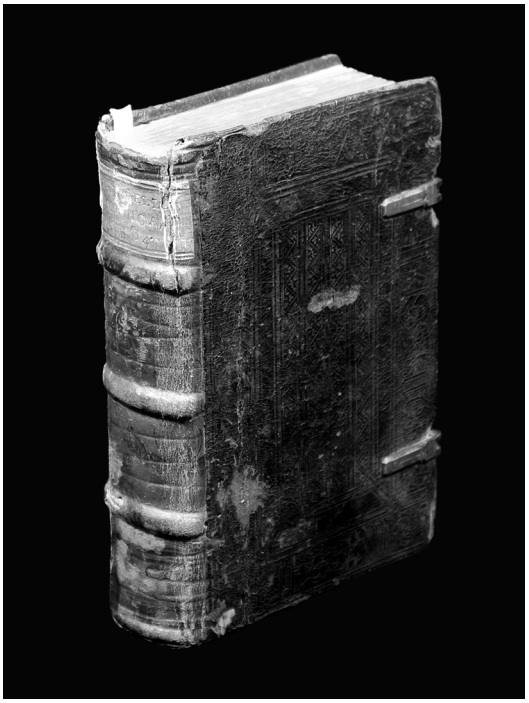

図1 『アルティチェラ』(1534)．坂井建雄蔵．

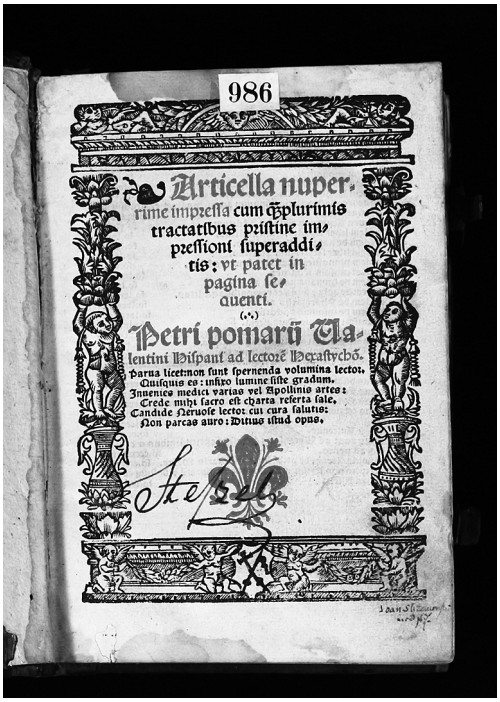

図2 『アルティチェラ』(1534)，扉．坂井建雄蔵．

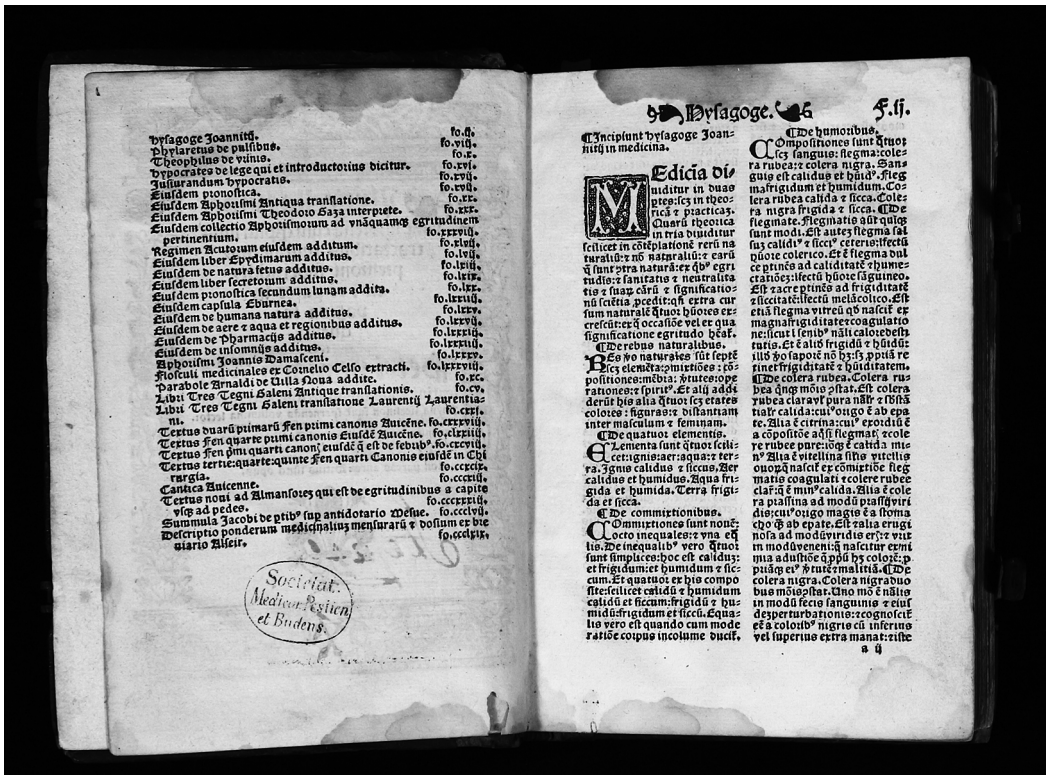

図 3　『アルティチェラ』（1534），目次と第 1 頁「ヨハニティウス『序論』」．坂井建雄蔵．

表 2　『アルティチェラ』（1534）の内容

1）ヨハニティウス『入門』	17）ヒポクラテス『空気，水，場所』
2）フィラルトゥス『脈について』	18）ヒポクラテス『薬』
3）テオフィロス『尿について』	19）ヒポクラテス『不眠』
4）ヒポクラテス『法』	20）ヨハネス・ダマスカス『箴言』
5）ヒポクラテス『誓い』	21）ケルスス『医学論』精選
6）ヒポクラテス『予後』	22）アルナルドゥス『比喩』
7）ヒポクラテス『箴言』古い翻訳	23）ガレノス『医術』古い翻訳
8）ヒポクラテス『箴言』テオドルス・ガザ訳	24）ガレノス『医術』ラウレンティウス・ラウレンティアヌス訳
9）ヒポクラテス『箴言』疾患別集成	25）アヴィセンナ『医学典範』第 1 巻第 1 教説
10）ヒポクラテス『急性病の摂生法』	26）アヴィセンナ『医学典範』第 1 巻第 4 教説
11）ヒポクラテス『流行病』	27）アヴィセンナ『医学典範』第 4 巻第 1 教説，熱病
12）ヒポクラテス『子供の自然性』	28）アヴィセンナ『医学典範』第 4 巻第 3・4・5 教説，外科
13）ヒポクラテス『秘密』	29）アヴィセンナ『医学の歌』
14）ヒポクラテス『月による予後』	30）ラーゼス『アルマンソールの書』疾患（頭から足へ）
15）ヒポクラテス『墓からの書簡』	31）ヤコブス・デ・パルティブス『医薬要約』
16）ヒポクラテス『人間の自然性』	32）アルセイルによる薬の量と用量の要約記述

ほぼすべての『アルティチェラ』に共通する．

ヨハニティウス（アラビア名：フナイン・ブン・イスハーク；808–873）はアッバース朝の翻訳家でギリシャ語の多数の文書をシリア語とアラビア語に翻訳し，また『医学の質問集』を著した．『入門 Isagoge』はそのラテン語訳で，『アルティ

チェラ』に収録されて広く読まれた．この著作は医学で必要とされる基礎知識を与えるもので，生理学，病理学，病因学，治療学，診断学の内容を含んでいる[5]．

フィラルトゥスは9世紀のビザンツの人で『脈について』の著者として知られる．この著作の内容は，ガレノスの偽作とされる『アントニウス宛の脈について』（Kühn, XIX: 629–642）によく似ている．

テオフィロスは7世紀ないし9–10世紀のビザンツの人で，多数の著作の著者として知られている．『尿について』では，尿の性状（沈殿，密度，色）を観察することを賞揚した．この著作の影響で，尿をガラス瓶に入れて観察する尿診が中世・ルネサンス期に広まった[6]．

ヒポクラテスの『箴言』についてはアラビア語からの古い訳と，ギリシャ語原典からテオドルス・ガザ（c1400–c1475）による新しい訳の2種類があり，また疾患別に編集されたものも収められている．

ガレノスの『医術』も，アラビア語からの古い訳と，ギリシャ語原典からロレンツォ・ラウレンツィアニ（c1450–1515）による新しい訳の2種類が収められている．

その他の文書としては，ヒポクラテスのいくつかの著作があるが，そのうち『法』，『誓い』，『急性病の摂生法』，『流行病』，『子供の自然性』，『人間の自然性』，『空気，水，場所』のように現在の『ヒポクラテス集典』に含まれるものもあるが，『秘密』，『月による予後』，『墓からの書簡』，『薬』，『不眠』のように含まれないものもある．アヴィセンナの『医学典範』からの抜粋，『医学の歌』，ラーゼスによる『アルマンソールの書』からの抜粋なども含まれている．

医学史における『アルティチェラ』

サレルノ医学校は10世紀後半に弟子を育てる医師の緩やかな共同体として成立した．早期（11世紀末まで）には古代の医学文書をもとに医学実地書が編まれ，アラビア語の医学文献がラテン語に訳され，医学教材書『アルティチェラ』が編まれた．盛期（12世紀末まで）には，『アルティチェラ』文書に注釈が加えられ，薬剤書や医学実地書が新たに多数書かれた．晩期（13世紀中葉まで）にはサレルノで学んだ医師がヨーロッパ各地で活躍した．13世紀中葉以後にサレルノ医学校の学校組織が形成されたが，各国に大学医学部が作られるようになった[7]．

サレルノ医学校で生まれた『アルティチェラ』は手稿本として広まり，ヨーロッパ各地の大学医学部で教材として広く用いられた．そして15世紀終盤からは印刷本として流通するようになった．印刷本の『アルティチェラ』は，当初は手稿本を模した形のフォリオ判として作られ，7版が1476～1513年に出版された．16世紀に入ると携帯可能な8折判が出版されるようになり，9版が1502～1534年に出版されている．中間サイズの4折判も2版が1523・1527年に出版されている．これら3種類の判型の『アルティチェラ』の内容を比べると，収録されている文書数に大きな違いがある．

印刷本の最初に出たフォリオ判の『アルティチェラ』には，中核となる6文書とヒポクラテスの数点の文書のみが収録されていた．1502年以降に出た小型の8折判になると，それ以外のヒポクラテスの文書が多数収録されるようになり，とくに1515年以降の版では，アヴィセンナの『医学典範』からの抜粋や，ラーゼスの医学書など，アラビアの医学書も収録されるようになった．1523年以降に出た中間サイズの4折判では，アラビアの医学書は含まれていない．

17世紀頃までのヨーロッパの医学教育では，『アルティチェラ』の他にもいくつかの書物が教材として用いられた．アヴィセンナの『医学典範』はギリシャ・ローマの医学を引き継いだ総合的な医学書で，12世紀にアラビア語からラテン語に訳された[8]．またヒポクラテスとガレノスの医学書は11世紀頃にアラビア語訳から，やや遅れてギリシャ語原典からもラテン語に訳された．16世紀に入る頃からガレノスの『全集』と『ヒポクラテス集典』が出版されるようになった[9,10]．しかしヒポクラテスやガレノスの医学文書は，さまざまな

表3　『アルティチェラ』各版の判型と内容

	フォリオ判		8折判			4折判	
	1476	1483, 87, 91, 93, 1500, 13	1502, 05	1506, 07, 10	1515, 19, 25, 34	1523	1527
ヨハニティウス『入門』	1	1	1	1	1	1	1
フィラルトゥス『脈について』	2	2	2	2	2	2	2
テオフィロス『尿について』	3	3	3	3	3	3	3
ヒポクラテス『箴言』	4	4	4	6	7	4	4
ヒポクラテス『予後』	5	5	5	5	6	5	5
ヒポクラテス『急性病の摂生法』	6	6			9	14	6
ヒポクラテス『流行病』		7			10	15	7
ヒポクラテス『子供の自然性』		8			11	16	8
ガレノス『医術』	7	9	6	10	19	17	9
ジェンティーレ・ダ・フォリーニョ『ガレノス著作の区分』		10				18	10
ヒポクラテス『法』		11			4		11
ヒポクラテス『誓い』		12		4	5		12
ヒポクラテス『秘密』					12	6	13
ヒポクラテス『月による予後』					13	7	14
ヒポクラテス『墓からの書簡』					14	8	15
ヒポクラテス『人間の自然性』					15	9	16
ヒポクラテス『空気，水，場所』					16	10	17
ヒポクラテス『薬』					17	12	18
ヒポクラテス『不眠』					18	13	
ヒポクラテス『水の種類』						11	19
ヨハネス・ダマスクス『箴言』			7	8	19		
ケルスス『医学論』精選			8	9	20		
ヒポクラテス『箴言』集成			9	7	8		
アルナルドゥス『比喩』					21		
アヴィケンナ『医学典範』抜粋				11	22		
アヴィケンナ『医学の歌』				12	23		
ラーゼス『アルマンソールの書』疾患（頭から足へ）				13	24		
ヤコブス・デ・パルティブス『医薬要約』			10	14	25		
アルセイルによる薬の量と用量の要約記述					26		
レオニチェノ『3つの学説』						19	20

テーマに分かれていて体系的に整理されておらず，医学教材として使い勝手が悪い．16世紀後半には，ヴェサリウスの『ファブリカ』（1543）や，フェルネルの『医学』（1555，1567に改題して『普遍医学』）が新たに書かれて，医学教材として広く用いられるようになった．これらの医学教材の出版状況を見ると，『アルティチェラ』は16世紀前半までに，『医学典範』も16世紀後半までに姿を消し，それと入れ替わるように16世紀前半あたりからガレノスの『全集』と『ヒポクラテス集典』

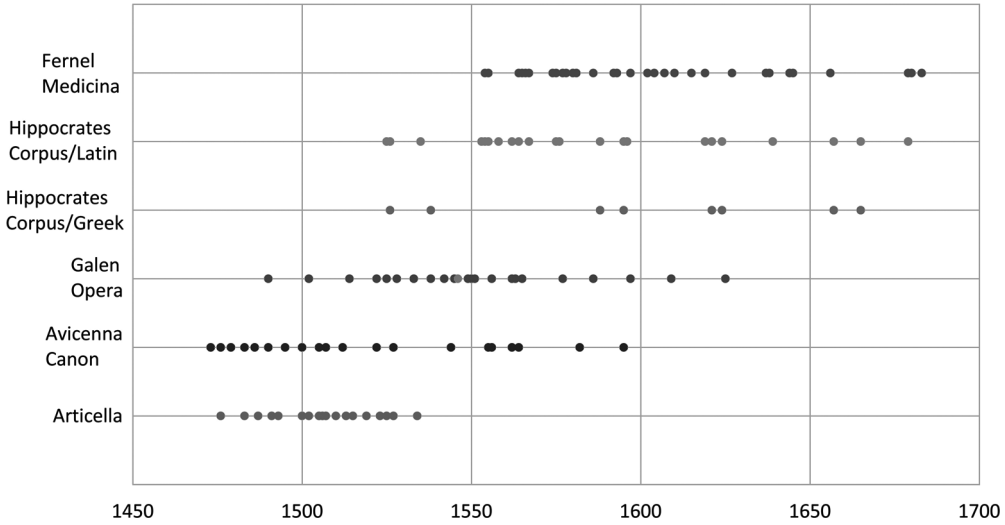

図 4　15 世紀後半から 16 世紀末まで，医学教材の出版状況．坂井建雄作成．

が出版されたこと，さらに16世紀後半からはフェルネルの『医学』などの医学書が新たに書かれ広まっていったことがよく分かる．

文献

1）O'Boyle C. Articella. In: Medieval science, technology, and medicine. An encyclopedia（Glick T, Livesey SJ, Wallis F eds）. New York: Routledge, 2005.

2）Green MH. Articella–ealiest copies.（https://www.academia.edu/39681292/Articella_Earliest_Copies; 2022/4/7 閲覧）

3）Arrizabalaga J. The Articella in the early press, c. 1476–1534. Cambridge: Cambridge Wellcome Unit for the History of Medicine, 1998.

4）Articella nuperrime impressa cum quam plurimis tractatibus pristine impressioni superadditis. Lugduni, Impressum per Joannem Moylin alias de Cambray, impensis Jacobi. q. Francisci de Giuncta Florentini, 1534.

5）矢口直英．フナイン・イブン・イスハーク著『医学の質問集』．イスラーム世界研究．2010; 3: 416–477.

6）Angeletti LR, Cavarra B. Critical and historical approach to Theophilus' De Urinis. Urine as blood's percolation made by the kidney and uroscopy in the middle ages. Am J Nephrol. 1994; 14: 282–289.

7）坂井建雄．サレルノ医学校―その歴史とヨーロッパの医学教育における意義．日本医史学雑誌．2015; 61: 393–407.

8）坂井建雄．アヴィセンナ Avicenna『医学典範 Liber canonis』．日本医史学雑誌．2022; 68: 65–71.

9）坂井建雄．『ヒポクラテス集典 Corpus Hippocraticum』．日本医史学雑誌．2021; 67: 296–301.

10）坂井建雄．ガレノス Galen『全集 Opera omnia』．日本医史学雑誌．2021; 67: 413–422.